

# グリーン四国

No.1241  
2023年  
8月号

## 石鎚山お山開き 【詳細は2頁】



### 目次

・石鎚山お山開き .....	2
・各署等のたより .....	3
・業務研修を受講して 一般業務研修：基礎A－森林の見方－ .....	10
・民有林との連携について .....	11



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
FAX 088-821-4834  
H P <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 石鎚山お山開き

〈愛媛森林管理署〉

7月1日から10日まで、愛媛森林管理署管内に位置する「石鎚山」でお山開き（石鎚神社夏季大祭）が執り行われました。



頂上社（みせん弥山）での神事の様子

四国最高峰の山である石鎚山（標高1982m）は、愛媛県の西条市と久万高原町の境界に位置しており、古くから山岳信仰の山として崇められております。お山開きでは3体のご神像をそれぞれ神輿に乗せて、弥山（標高1974m）にある

頂上社に奉られます。また、お山開きの期間中は、山から、鈴やホラ貝の音がこだましております。

今年、4年ぶりにコロナウイルスによる制限が無くなり、神事には、およそ300人の信者が参加して行われ、10日間で多くの方が参拝や登山のために訪れました。



パトロールの様子

毎年、お山開きの期間中、当署は、登山者の安全確保を図るために石鎚神社、各市町村、警察、消防等の各機関と連携してパトロールを実施しています。令和5年度も、西条市側からロープウェイを利用して成就社から登るルートと石鎚スカイラインまたはUFOラインを通って土小屋から登る土小屋ルートの2つのルートからパトロールを行いました。パトロールでは、不法投棄されたゴミの回収や山林火災及び不法採取を防止するため、登山者に対する注意喚起を行いました。

天候が悪く、滑りやすい箇所もあり、登山者は転倒に注意して安全に登山行っていました。また、「お下りさんです」「お上りさんです」などと参拝者同士しっかりと声をかけを行い、集中して登山を行っていました。そうした中、気温が高いため熱中症になる登山者がおり、ヘリコ

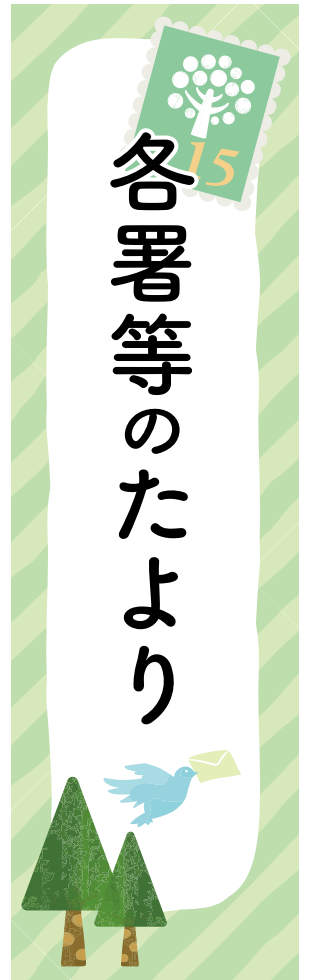
プターを利用して病院に搬送される場面が見られました。



鎖場

参道では、不法投棄されたゴミが大変少なく、登山者の節度のある行い及び石鎚山に関わる各機関の方による管理が十分に行われていることが見て分かりました。

石鎚山はお山開きの後も様々な行事があり、多くの方が訪れます。訪れる際には、体調管理や登山マナーに十分気をつけていただき、石鎚山に関わる景観や文化、人々との交流を楽しんで頂きたいと思えます。



## 林業大学校生が 造林鎌で下刈り

〈高知中部森林管理署〉

高知中部森林管理署では、四国森林管理局と高知県との間で締結した「高知県立林業大学校における人材育成に向けた連携及び協力に関する人材協定」に基づき、人材育成に積極的に取り組んでいます。



本年度も最初の現地実習として、6月29日、谷相山国有林において、令和5年度「基礎課程」の学生22名で、造林鎌による下刈り作業を実施しました。

今回の作業地は、平成30年度に同大学校の学生がスギを植栽した約1ヘクタールの箇所です。

はじめに、岡部次長から「本日は、蒸し暑い中の厳しい実習となります。下草刈りは山を育てる大切な作業のひとつです。現在は、冬下刈りも実施しており、作業時期は多様化しています。また、今では珍しくなった手刈りでの作業を行います。エンジン式やバッテリー式の草刈機の使用が主流となっておりますが、手刈りは大変な作業となりますが先人達の苦勞を体験いただきたいと思えます」と挨拶がありました。

次に、熱中症には十分注意するよう、こまめに水分・塩分補給と休憩

を各自で行うよう指示すると共に、手鎌の使い方、作業手順を伝え、シカがネット内に侵入している可能性があることを注意して、学生の4班それぞれに職員（15名）が指導役として加わり、実習を開始しました。

スギは植栽後5年目で大きく成長をしており、背丈を超えるものもあり、これまでの作業の実りを実感しながら作業を進めました。

学生の中には、体力に自信もあり力まかせに鎌を扱うものもやがては要領をつかみ、体力の消耗を抑え、暑さとバラ類に悪戦苦闘しながらも、予定していた箇所の下刈りを概ね時間内に済ませることが出来ました。



保育作業は、手間と労力が必要な作業であることを、実感してくれたことと思います。

最後に四国森林管理局の技術普及課長から、「今日は、暑い中での作業となり大変だったと思います。ゆっくり身体を休めてください。」と挨拶があり、今回の実習を終りました。

秋からは、地拵え、シカネット設置、単木保護、植え付けの実習を予定しており、当署としても引き続き高知県の林業を担う人材を育成する取組の一端を、担っていききたいと考えています。

## 嶺北高校で

### 森林学習の授業を実施

〈嶺北森林管理署〉

7月25日、嶺北森林管理署は、本山町内にある県立嶺北高等学校の3年生7名を対象に、森林学習の授業を行いました。

本取組は、本校農業コース「森林科学」の集中講座の一環として、依頼を受け取り組んでいるものであり、令和2年度から継続的に行っております。



講義の様子



ドローン実技の様子



当日は、榛田署長から「四国の森林と森林の現状と役割」などの講義を行った後、署員より、ドローンの体験飛行のための各種規制や操作方法等の説明を行い、実際に高校グラウンドにおいて一人ずつドローンの操作に挑戦しました。

生徒達は、ドローンの操作が初め

てでしたが、皆が上手く操縦を行い、普段自分達が行っている校舎や町並み、空からの違う視点から見る景色が新鮮で楽しそうな様子でした。

この他、グラウンドでのコンパス測量の体験と測定結果を基にした製図作業を行いました。

生徒からは「ドローンを初めて操縦して最初はちゃんと飛ばせるかなと心配していましたが慣れてくると操縦が段々楽しくなってきました」「コンパス測量の測量方法と誤差修正の方法を知ることが出来て勉強になりました」といった感想が聞かれました。



コンパス測量講義

今回の授業によって、嶺北地域地の生徒達に森林、林業に対する興味と関心を持ってもらい、コンパス測量など実際の体験を通して学ぶことが出来たのではないかと思います。当署では、今後も嶺北高校への協力とともに地域の方々にも森林・林業に対する理解を深めていただく取組みを行ってまいります。



## 合同人材育成会議の開催 (高知中部森林管理署・ 局資源活用課)

〈四万十森林管理署〉

国有林では、国有林の有する公益的機能の維持増進と木材の持続的かつ計画的な安定供給を目的として森林整備事業（間伐等）を実施しています。四万十森林管理署は、北は須崎市から南は土佐清水市までの四万十川流域の国有林を管理しており、当年度66,500m<sup>3</sup>の木材生産を計画しています。

管内の各事業地（約20箇所）から、間伐した材木を木材市場や中間土場に搬入し、「システム販売」と「委託販売」とに分けて販売し、製材工場や合板工場へ搬送しています。

しかしながら、事業の最盛期には一時的に民有木材も含め、高知県西南部の木材市場や中間土場への搬入が集中し、受入れ困難状態になることから、運送費のかかり増しを覚悟の上で、愛媛県の南予地区の木材市場に運ばざる得ない実態が課題となっています。

今後、更なる生産量の増加が予想される中、新たな搬出（仕分け）拠

点（中間土場）の整備の可能性を検討するため、令和2年度、竹島土場（中間土場）の開設時に資源活用課長だった、現高知中部署の吉良署長に講師を依頼し、7月6日、7日に、当署事業担当者と高知中部森林管理署、四国森林管理局資源活用課の計12名で合同の勉強会を開催しました。（高知中部署との交流（勉強会）は昨年に続き2回目）

1日目は、中間土場として整備した「竹島土場」にて、開設当時の経緯や開設に当たって、土場近隣の農作地や農業用ため池に木皮が飛ばないよう金網フェンスを設置したことや、側溝に木皮が流れないための措置など近隣施設へ影響を及ぼさないための対策について説明を受けました。

その後、四万十市磯ノ川の国道56号線に面した空き地、宿毛新港の空き地、宿毛市平田の工業団地のバイパス発電所に近い空き地を回り、吉良署長から「四国の木材流通」及び「宿毛新港の活用について」の説明を受け、立地条件や敷地面積を基に開設の可能性について検討しました。

視察の最後には、今後の山元から消費者までの木材のサプライチェー

ンの構築についても話が及び、流通のコスト削減や効率化、木材の安定供給を図るためにも複数の土場の有効性が職員間で再認識されました。

2日目は、署の会議室で高知中部署の齋藤主任森林整備官から署の重点的取組として実施している「獣害対策」について、シカやカモシカによる食害の被害状況とそれによる土壌の流失や裸地化の問題などの説明がありました。

植栽木が食害される高さを検証した赤外線センサーカメラの映像を見たり、高知中部署管内は、急峻な地形が多く、岩の落石によるシカ防護網の倒壊があり、金属製の支柱やワイヤーを試験的に設置している事例の話など、大変参考になりました。

その後、黒潮町と四万十町の境に位置する大峠東山214林班の保育間伐活用型の実施箇所にて現場説明後、意見交換を行いました。

今回の取組は、職員の能力向上や人的パイプづくりを目的としたものです。

今後とも、当署の「強み」を示し「弱み」を補う取組として、他署との交流（勉強会）を進めていく考えです。



## 四万十森林管理署との 意見交換会開催

〈香川森林管理事務所〉

7月19日から20日の2日間、香川森林管理事務所職員6名と四万十森林管理署職員9名とで、「人的パイプづくり」を目的とした意見交換会を開催しました。

初日は、当所管内の鷹山33林班（高松市塩江町）にて、森林技術・支援センターの渡辺所長より、集約化試験団地の説明を受けました。



各試験区の説明を受ける様子



意見交換の様子

集約化試験団地とは、四国各地に設定されていた「下刈時期の違いによる検証」や「単木保護資材の違いによる獣害対策の検証」などの試験地を、一箇所のフィールドに集約し、調査・検証作業を効率化するとともに、いつでも視察できる「見える化した試験地」です。

天候が崩れたため、全ての試験地を見学できませんでしたが、「見える化した試験地」は、とても興味深い取組だと思いました。

2日目は、当所会議室にて意見交換を行いました。四万十署で行っている人材育成・交流の取組として、署内で月に一度、話をする場・気づきの場・何かを産み出す場として開催している「寺子屋 四万十」、高知

県の出先機関「幡多・須崎林業事務所」との関係強化等、署内交流や地域交流を活発に行っていることを紹介していただきました。

その後、紹介のあった取組や日常での業務について若手職員達で意見交換を行いました。メールでの情報共有の仕方や、森林官として現場状況を伝える難しさ等、様々な意見が飛び交いました。「寺子屋 四万十」は好評で、当所でも若手職員で始めていきたいと思えます。

意見交換会の後、当所管内の飯野山（丸亀市・坂出市）に移動し、飯野山に指定されている保安林の説明と、「二日一石運動」について体験しました。

飯野山は、瀬戸内海沿岸近くに位置し、特色ある地形が付近を航行する漁船等の目標となっているため珍しい「航行目標保安林」に指定され、航行の安全に寄与しています。

県民から親しまれている飯野山ですが、谷地形がほとんど無いために大雨が降ると登山道が流水により洗掘され、度々荒れてしまっています。

このため当所では丸亀市、坂出市、登山者の方と連携し、登頂の際に石や土を少しずつ運んで保全する「二日一石運動」を行っています。

今回は、参加職員が一人一袋を持ち3合目まで登りました。「二日一石運動」のおかげで歩きやすい登山道が維持されていたため、職員には余裕の表情が多く見られました。

全体を通じて職員からは「他署の先輩・後輩にはあまり会う機会が無いので、貴重な時間を過ごせてよかった」との感想がありました。

今回の意見交換会は、四万十署長が中心となり、「人的パイプづくり」を目的とした各署との交流会を開いているものです。私達も四万十署を見習って「人的パイプ」を繋いでいけるよう、今後このような意見交換会を他署に仕掛けていきたいと考えています。



飯野山3合目に着いて一息

## 「山の学習と香山寺野外活動（中筋小学校森林環境教育）」

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

四万十市立中筋小学校から、「3・4年生児童10名の総合的な学習で、昨年度は川の学習を行いました。今年度はふるさとに自然に触れこの地域の素晴らしさを感じられる山の学習として、近くの香山寺市民の森（以下香山寺）で野外活動を計画したい。まずは、山にはどういった危険があるのか児童達に理解してもらう必要がある。事前学習の授業と香山寺野外活動の延べ2日間について支援と指導をお願いしたい。」との要請がありました。

同時に植物学習も実施したいとの意向もあったことから、学校側から幡多地域の動植物に詳しい杉村和男氏（四万十市内在住の元四万十市役所教育委員（会職員））に依頼を行ってもらい、当センターと同行し現地下見や説明手法の打合せなどの調整も行い対応することにしました。

まずは、6月13日に、山の学習の事前学習を実施し、当日は中筋小学校教室にて児童達からいただいでい

た質問に対し、解説も加えながらわかりやすく回答し、香山寺の歴史的な背景や見所等の説明と併せて、野外活動における注意点や服装など、安全に関することについて理解してもらいました。



事前学習で質疑応答に答える杉村氏

6月27日、香山寺（四万十市坂本）野外活動本番、「どこが見えるか眺めてみよう。」として催したメニューでは、事前の下見等で設定していた説明順路に沿って、杉村氏により、駐車場側の展望台から間近に見える高森山、はるか遠くに見える黒尊山系や篠山などについて写真付きの資料で丁寧な説明がありました。

続いて、香山寺の遊歩道を歩きな

がら、園内に整備されたフジ（四万十市の花）、キョウチクトウ、イチヨウ、クサギ、オンツツジ、ヤマモモ（高知県の花）などの樹木やヤクシソウ、ティカカズラなどの野草について解説しました。特に、シハイスマリの自生エリアでは、とても小さく見つけにくいのが特徴的で牧野博士が最も好んだスマリであることを説明すると、児童たちも徐々に目が慣れてきたらしく「ここにもあったー」と次々にスマリを見つけ歓声があがりました。



山の学習で児童の事前の質問に答える様子

また、フジ、ティカカズラ、シハイスマリなどの種子を見つけた所では、植物が子孫を残していく手法の一つである「空飛ぶ種子」の説明を行い理解を深めてもらいました。

さらに、植物学習と併せ、園内の散策と同時にネイチャーゲーム（フィールドビンゴ・木漏れ日キャッチ・おさんぼしおり）を楽しみながら自然にふれあってもらいました。

最後に、三重の塔（展望台）に上がり、展望台から見える周囲一帯の山々から四万十市街地を経て太平洋へ注ぎ込む四万十川の位置関係を眺



香山寺野外活動の様子

めてもらいながら、「空は青く、街が緑に囲まれ、清らかな四万十川、この山川海の豊かな自然に恵まれ、その中に私たちの暮らしがあります。また、この山々の緑は地球温暖化防止にも大変重要な役割を担っています。これらの自然はともかけがえない宝物なので、この豊かな自然をみなさんが守っていった下さい。」と児童達に語りかけました。

終わりに、ログハウス造りの休憩舎へ移動し、山頂ならではの心地よい風を受けながら美味しいお弁当を食べ、少しだけ遊具で遊んだあと、閉会式として児童代表からお礼の挨拶をもらい、一連の活動を無事終了することができました。



香山寺三重の塔をバックに集合写真



牧野博士が好んだシハイスミレ

今回は梅雨時の野外活動ということで天候が気がかりでしたが、奇的に晴天に恵まれました。当センターとしては、新たなフィールドを活用した学習実績を今後の活動メニューの一つとして加えることができ、地域の小学校の要望に応えられ大変有意義な一日となりました。

## 「校庭樹木と草花の観察会を開催（東中筋小学校）」

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

昨年の冬に、四万十市立東中筋小学校から「学校の校庭樹木に木の名札が無いことから、五年度に樹木等の学習をして木の名札を付けたい。」との要請がありました。

春になり、四万十川流域の植物や植生に詳しい杉村和男氏と当センター職員が連携して実施することになり、一緒に下見して樹木を同定しました。

下見の結果、小学校を中心とした周辺には、希少な植物も見られました。現在、高知県の植物学者、牧野富太郎博士をモデルにしたドラマ、「らんまん」が放映中なこともあり、学校との打ち合わせの中で、牧野富太郎博士になった気分です。樹木や植物を観察してみようという話に発展しました。

これを受け、6月28日に、3・4年生児童12名を対象に、校庭樹木と草花の観察会を開催しました。

当日は、最初に樹木の幹や枝葉に触れてもらい、木の肌の感触や葉の匂いを楽しむなどの体感を通し16種の樹木についてその名前や特徴が理解出来るよう説明し、また、樹木は四季による様々な変化があるので、一年を通して観察して見るとおもしろいといったことも説明しました。

途中、大きなナンキンハゼに測桿をあて、木の高さを当てるクイズも実施しました。校庭にシロツメクサがある場所では、ミッシュン追加とすることで、四つ葉のクローバ探しを行うと、驚くことに児童数名がすぐに見つけてくれました。「とじこめる」を使って押花にし、興味のある草花や葉っぱを見つけたら、同じように押花を作って保存・観察しようという趣旨で参加の児童に配布しました。

学校のフェンスの外の樹木のネズミモチや草花のオトギリソウ、キズタの恋占い（西洋）の話も杉村氏がすると皆とても興味を示していました。

また、学校の授業の中で作成をお願いしていた樹木名板を、児童それぞれが担当する樹木に設置しま



した。

最後に、学校付近の堤防で、草花のクララ（絶滅危惧種）、ツユクサ、ドクダミなどの草花の観察を行い、梅雨空の中での観察会を無事終了しました。

児童から戴いた感想文には、「樹木名板は、作成から取り付けまでとても楽しんで取り組めた。」「私の担当したエノキが川のほとりにいるのが好きと聞いて驚きました。」「恋愛の葉っぱについて教えてくれてありがとう。」「ありがとうございます。」などと書かれ、観察会を通して、樹木や草花にうくと近づき、興味を持ってもらえたと感じています。



ミッション追加、四つ葉のクローバを探せ！の様子



エノキの葉の特徴を児童に説明する杉村氏



樹木名板を設置したよ



ナンキンハゼを説明



## 業務研修を受講して 一般業務研修：基礎 A

— 森林の見方 —

徳島森林管理署

藺島 敏弘

四国森林管理局にて、7月10日から14日の日程で一般業務研修（森林の見方）を受講しました。本研修は主に新規採用者を対象に、現地実習を主体とした森林整備に係る基礎知識及び技能習得を図る目的で行われました。

初日は森林整備課及び計画課の講師による講義ののち、宮沢一正森林整備部長よりご講話を頂きました。森林整備課の講義では造林事業における事業計画と、「適地適木」の考え、各種施業の利欠点について学び、現場の条件に適した施業の重要性を改めて確認できました。計画課の講義では森林の種類と調査、機能類型と林種ごとの施業方法について学び、現状の理解と将来展望を持った施業の必要性について理解できました。森林整備部長のご講話では、自身を護るために気を付けるべき事柄について、森林や林野庁に関係する関係

者や法人について、及び我々の携わる業務と目指す目標についてお話をいただき、森と暮らし管理していく者の一員としてのつながりや持つべき意識について理解を深めることができました。

2日目は保全課より、境界管理や地籍調査の意義についてとトランシット・コンパスをはじめとした機器類や標識について講義を受けたのち、城西公園にて検測の実習を行いました。標識の流失や埋没など、さらに検測を難しくする要因が多く出てくる実際の林内でも困ることのないよう、操作の習熟と事前の準備の重要性を実感できました。

3日目は計画課主導の下、焼滝黒滝山国有林にて森林材積調査の現地実習として、森林3次元計測システム「OWL」を用いた立木データの算出の他、バーテックス及びKスケールを用いた検測を行いました。機械による検測は範囲内においては正確ですが、トラブルや範囲限界などにより誤差が生まれたり検測できなかったりすることを実感し、機械と手作業それぞれの利点を最大限生かすためのプランニングの重要性を学びました。

4日目は森林整備課主導の下、柞

多尾63林業専用道にて林道敷設の様子や擁壁の設置等の視察を行い、遠隔での現地視察について現地実習を行いました。林道は施工距離が長く、地質等の影響を大きく受けることを目で見て実感することができました。また、遠隔での現地視察は非常に効率的であるものの、電波をはじめとした課題も多いことを学びました。

最終日は森林整備課主導の下向山国有林にて薬剤利用の食害対策について現地実習を行う予定でしたが、通行止めにより急遽講義の形となりました。薬剤による防除はわな類での防除の難しい鳥獣への対策として効果的である反面、程度を誤れば大きな被害を生んでしまうため、慎重な技術開発が行われていることを学びました。

今回の研修は出梅前となり天気不安もありましたが、幸いにも天気に恵まれ森林整備に関して沢山の学びを得ることができました。いずれも森林に関わる者として必須の教養と心得、目的意識をもって普段の業務でも理解を深めていきたいと考えます。

末筆ではございますが、本研修に際し多大なるお力添えを頂きました

局担当課職員の方々をはじめとした関係者の皆様へ研修生を代表して感謝申し上げ、締め括りとさせていただきます。



## 【民有林との連携について】

企画調整課長

松尾 好高



本年4月から企画調整課でお世話になっている松尾です。北海道森林管理局勤務以来、国会・予算畑にいたため、久しぶりの国有林勤務となり、勉強の日々です。

また、四国局管内の勤務は初めてですが、学生時代にシユノーケリングで度々、大月にお邪魔したことや、地元の和歌山と似た景色―吉野川流域と紀の川流域、急峻な四国山地と紀伊山地―を眺めるにつけ、懐かしさを感じるところです。

さて、この度は貴重な紙面を分けていただいたので、在職している企画調整課において行っている民有林との連携等について、紹介したく思います。

### 1. 森林・林業・木材産業のグリーン成長に向けた連携

四国森林管理局が管理している国有林は香川県と同じ広さの約19万ha

で、四国の森林面積約121万haのうち約16%を占めており、原木生産量は四国全体の約15%を占めているという状況です。他方、造林・保育については、四国森林管理局管内の植栽密度は2千本/ha、間伐に占める列状間伐の割合は100%など、現場の諸先輩方の御努力により省力化・低コスト化が進められている状況です。伐採と造林の収支をプラスに転換する「新しい林業」の実現と原木の安定供給等による林業・木材産業のグリーン成長の実現に向けては、民有林の模範となりながら、連携を深めていくことが重要です。



林政協議会

このため、今年度も4県と個別に林政協議会を開催し、各県の取組や抱える課題を、地元の森林管理署とともに情報交換などを行い、一緒に連携できる部分は深化させているところです。

また、9月には4県、林野庁、四国森林管理局が一堂に会する林政連絡協議会を開催し、来年度予算を中心に、四国地方が、どのように森林・林業・木材産業の取組を推進していくか議論する予定です。

さらに、秋には、国有林野所在市町村有志協議会等を開催し、市町村とも、地域の存立基盤である林業をどのように元気にしていくか、地域の声を丁寧に拾い上げながら議論していきたいと考えています。

### 2. 防災・減災に向けた連携

このほか、激甚化する災害、土木分野の担い手不足等、森林土木を取り巻く情勢を踏まえ、選ばれる森林土木の推進に向けて、4県、土木事業体、森林管理署等に集まっていたが、衛星通信を活用したリアルタイム中継等の実演会や災害発生時の初動対応について、連携を深めました。

### 3. 国有林モニターについて

こういった国有林の取組を国民の皆様知っていただくとともに、貴重な御意見をいただくために国有林モニターを実施しています。次期国有林モニターの募集（HP等に掲載）は今年末から実施を予定していますので、是非、応募をお待ちしています。

以上、乱筆なものでして、お目汚し失礼致しました。猛暑が続きますが、皆さま御自愛ください。



衛星通信のデモ



登山客で賑わう石鎚山



国有林モニター



自宅からぶらり自転車旅



温暖帯から亜寒帯までの綺麗な垂直分布

